

十勝 野菜も道内席卷 収穫量 8品目がトップ 面積も全道一 2018年3月14日 道16年産調査

2016年に十勝管内で収穫された野菜の道内シェア（重量ベース）を調べたところ、主要31品目のうちナガイモや枝豆など8品目で首位だった。作付面積は1万1667ヘクタールと振興局別で道内最大。小麦など畑作主要4品目に隠れがちだが、管内が野菜王国でもあることを裏付けた。また、16年産は台風被害から面積当たり収量が落ち込んだものが目立ち、豊作だった17年産はトップシェア品目がさらに増える可能性がある。



中札内村の枝豆収穫作業。ＪＡは収穫した枝豆を冷凍処理する工場を建設し、全国に出荷している

道農政部が全道の市町村やＪＡから聞き取り、2月中旬にかけて集計した「主要野菜作付実態調査」を基にシェアを算出した。全道の作付面積は4万7099ヘクタール。十勝、オホーツク、上川の順で、上位3振興局で全体の7割弱に達した。

収穫量の道内シェアが最も高かったのが枝豆で約96%に達する。ＪＡ中札内村が栽培に力を入れ、全国的なブランド作物に育てた。

5月の大型連休前後に植え付け、9月にかけて収穫する。大型機械で作業を効率化し、収穫から3時間以内で冷凍加工する体制を整えた。収穫後の劣化を最低限に抑え、新鮮で青々とした枝豆を年中提供する。

ナガイモのシェアも86%と高い。ＪＡ帯広かわにしを

◆十勝管内の収穫量が 道内シェア首位の主要野菜

品目	収穫量 (トン)	道内シェア (%)
枝豆	3716.2	95.7
ナガイモ	3万5997.5	86.0
サヤインゲン	1150.7	63.7
ゴボウ	5141.7	55.0
ニンニク	173.6	37.2
キャベツ	1万3150.5	31.5
スイートコーン	1万5328.2	30.8
ダイコン	3万4669.0	30.5

(注)道農政部の2016年産
主要野菜作付実態調査から算出

中心に管内9ＪＡが「十勝川西長いも」のブランド名で生産し、青森県と並ぶ国内の一大産地だ。台湾や米西海岸にも輸出する。

16年は台風で大量の雨水が土中に入り、生育が悪化したナガイモが多かった。

だが、17年は形がよく高値で取引されるものも多く、農家の生産意欲は強い。

キャベツ、ダイコンといった消費量の多い野菜でも、3割超の道内シェアを確保した。ＪＡ十勝清水町などが高収益作物として育成するニンニクも約170トンとトップシェアだった。

一方、管内の作付面積別ではスイートコーンが4100ヘクタールと最も広がった。

野菜は相場変動が大きく、収穫量が農家の収入に直結しない年もある。17年産はダイコンなどが全国的に豊作で相場が低迷した。

また、野菜は収穫の手間がかかるものが多い。人手不足が深刻になる中、新作物の育成を試行する農家も少なくない。

人手不足続く十勝農業 海外労働力受け皿整備 酪農家主体に組合設立 国の管理強化で拍車

2018年3月18日

人手不足に悩む十勝管内の酪農家が、外国人技能実習生の受け入れ体制を自ら整備する動きが出ている。酪農家主体で組合を設立し、実習生がかかわる現場のトラブルなどに迅速に対応する「監理団体」を自前で運用する。これまででは管外の専門機関を通じた受け入れが多かったが、労務管理が行き届きにくい面があった。昨秋の制度改正で、実習生の管理責任を厳しく問われるようになったことも背景にある。

「受け入れから1カ月で立派な戦力になる。ベトナム人同士で連携し、手際よく搾乳してくれる」。豊頃町の酪農法人Ｊリードの井下英透代表はこう話す。

まだ寒さが厳しい3月5日。4人のベトナム人女性が

ロータリーパーラーに載った乳牛を、休む間もなく搾乳していた。Ｊリードの生乳生産量は年間8000トン弱。外国人技能実習制度で受け入れているベトナム人8人は、1日3回の搾乳を続けるのに欠かせない。